

# 安楽寺だより

第46号

紙面内容

- 2面 「黒田様お別れの会」開催  
3面 春彼岸墓法要をお勤めする  
4面 日本仏教史(補足) 蓮如上人2

編集・発行 安楽寺住職 吉田 和良  
名古屋市瑞穂区井戸田町一の八〇  
電話 〇五二（八四一）二六〇六

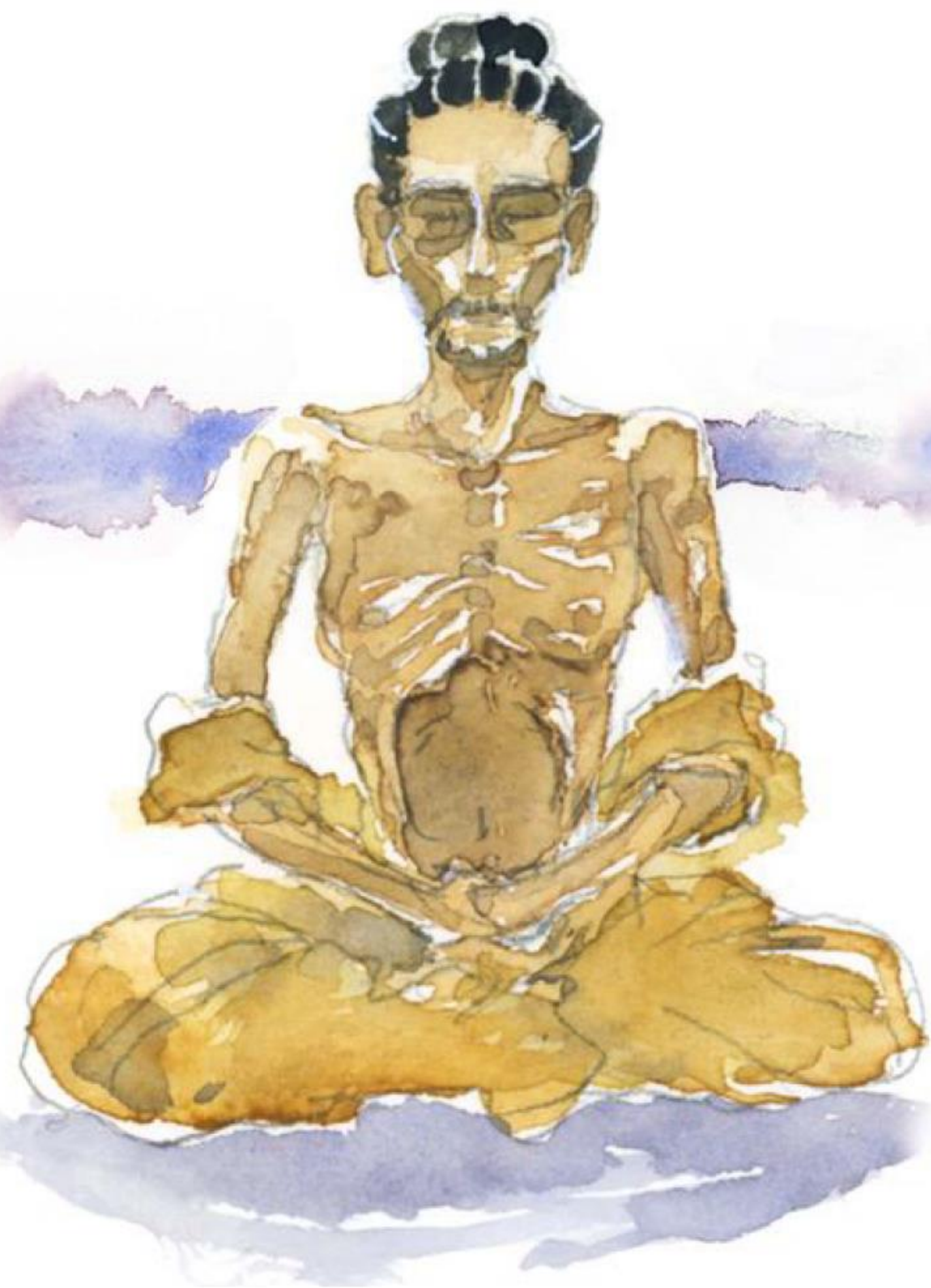
## 第5回 若き釈尊の修行

沙門となったシッダールタは、出家者の作法に従って、王舎城を取り巻く五山の一つであるバンダヴァ山の岩陰に居を定め、日に一度鉢を手に持ち、街に降りて托鉢をされました。

ある日、宮殿の高楼からシッダールタを見られたビンビサーラ王が、沙門をお尋ねになつて彼が「釈迦族出身の王子」とお聞きになられました。そこで国王は「あなたは、きつと立派な王様になられるお方です。マガダ国の半分を差し上げましょう」と、申し出されました。

しかし、シッダールタは「私の求めているのは、国や財宝ではありません。どんなに苦しくとも、いつの日か心理を究め、それをば国王にお教えすることをお約束します」と、申し出をお断りされました。

この時代のマガダ国周辺には、優れた沙門が多く集まっていました。シッダールタは、坐禅主義者のアーラーラ・カーラーマ仙、そしてウツダカ・ラーマプッタ仙に教えを請いました



が、禅定修行では、自らの解決を見いだせず、一転して苦行生活に入られました。

後年お釈迦さまは『私は寂静の境地を求めてマガダ国ウルヴェーラのセーナ村に入った。そこは、林は鬱蒼(うっそう)としており、ネーラシジャー河の清流があふれている。さとりを得ようとする者が学ぶのに誠に適切な所である』(中阿含経)と述べられています。

シッダールタは、近くの村に赴いては托鉢をして飢えをしのぎ、巨樹の下や川の畔で静かに想念を凝らされました。また時には岩山に登り、洞穴でも修行を続けられました。

最も厳しかったのは、呼吸を止める修行と断食でした。シッダールタは、何日も何週間もこれを続け、そして六年間も繰り返されたのです。

このような苦行によって文字通り骨と皮のような身体になり、幾度も生死の境をさまよわれました。強靱な意志の力は鍛えられました。苦行によっても、求める理想に達することはできませんでした。

六年の間、苦行修行をされた沙門シッダールタ



# 黒田さまお別れの会

三月十九日、お彼岸日和の穏やかな陽気の中、安楽寺会館に於いて、「黒田保彦様のお別れの会」をお勤めいただきました。黒田保彦さまは、二十一歳で黒田製作所を引き継がれ、社長として会社経営に邁進して来られました。

その傍ら、安楽寺責任役員として、安楽寺が厳修した御遠忌法要を始め各諸行事で中



安楽寺会館の玄関



会館法要室でご焼香の様子



在りし日の写真パネル展示

心となつてご尽力いただきました。

お別れの会では、昨年七月二十四日、行年九十三歳でご逝去された、黒田さまが歩んでこられた写真パネルが展示され、来館された黒田精機製作所の社員の皆様が、熱心に見学しておられました。住職と若院とで読経する中、参加された皆様にご焼香をしていただきました。

黒田保彦さま・雅子さまご夫妻には、

安楽寺が行なう法要のたびに、いつも頼りにしてまいりました。特に、佛佳会を再発足した折、また安楽寺会館の建設いたしました時には、適切な助言をいただき、言い尽くせないほど感謝をいたしております。改めて哀悼の意を表したいと思います。



# 佛佳会総会を開催



会館 2 階で開催した総会の様子

佛佳会は、ご門徒の皆様との親睦交流を図り、安楽寺の護持発展を目的として、平成七年に再発足し、今年で二十八年になります。

今年初めよりコロナ禍の状況が続いておりましたが、二月十一日に安楽寺会館において、感染防止対策をして佛佳会総会を開催いたしました。昨年の総会より増えて三十四名の会員の皆様にご出席いただきました。

総代の早川様の司会で開会し、全員で真宗宗歌を唱和した後、総代の市川様に

経過報告をお願いしました。「最初に昨年七月に亡くなられました黒田様に、皆様と黙とうを致したいと思えます。・・・黒田様には、数十年間安楽寺の法要をはじめ、佛佳会再発足や安楽寺会館建設などにご尽力いただきました。哀悼の意を表したいと思います。二年間開催を中止しました親睦旅行は、コロナ感染状況を考慮し、出来ましたら秋以降にも実施したいと思っております」

続いて総代の吉田様から会計報告がございました。「会館東側の土地を駐車用地として購入する資金として、会の会計より支出させていただきますました」その後、市川様から会計監査報告があり、全員の拍手でご承認いただきました。



黙とうする出席者の皆様

最後に恩徳讃を斉唱して総会を終了しました。

ご門徒の皆様、ぜひ佛佳会にご入会をお願いしたいと思います。

詳しくは、安楽寺にお問い合わせください。説明などをさせていただきます。

# 春彼岸墓法要勤める



三月十八日、八事霊園安楽寺墓地で春の彼岸墓法要を開催しました。早朝よりどんよりした空模様でしたが、多くの皆様にお参りをしていたいただきました。

今年一月よりまん延防止等重点措置発令中でしたが、何とかお勤めすることができました。午前九時頃より小雨が降ってまいりましたが、永代供養墓のお参りに、一人二人とお出かけいただき、法要開始の十時三〇分には、数十名の皆様がお集まりで、傘の華が咲いているようでした。

墓前でお勤めする中、彼岸にご往生された亡き方々を偲び、静かに皆様にお焼香をしていただきました。

法要の様子をオンラインで同時中継いたしました安楽寺会館には、二十五、六名の皆様に参加され、お焼香をしていただきました。ご参拝誠にありがとうございました。



# 仏教豆知識

第四十六回



## 日本仏教史

### 補足 蓮如上人2

#### ③ 本願寺第八代就任

部屋住みの蓮如は、衰退した本願寺の発展を実現させるため、親鸞聖人の主著「教行信証」そして教行信証の注釈書である「六要鈔」「安心決定鈔」を座右の書として学び、(本願寺の)教説を確立させました。

一四五七年(長祿元年)蓮如が四十三歳の時、第七代・存如が亡くなったことで、本願寺継承問題が表面化しました。存如の妻・如円は、実子・応玄を就任させるため動きましたが、存如の弟・如乗が蓮如を強く推挙して、本願寺第八代に就きました。

#### ④ 御文の発表

蓮如上人は、布教活動を始め、部屋住み時代に研鑽して作成した御文第

一号が一四六一年(寛正二年)に出されました。この後、ご門徒衆が真宗の教えを理解する大切な文章(手紙)を近江堅田門徒をはじめ、近隣の国々の民衆に伝えました。

#### 御文第一号

当流上人のご勸化の信心の一途は、罪の軽重をいはず、また妄念・妄執のこころのやまぬなどという機にあつかいをさしおきて、ただ在家止住のやからは、一向にもろもろの雑行雑修のわるき執心をすてて、弥陀如来の悲願に帰し、一心にうたがいなくたのむこころの一念おこるとき、すみやかに弥陀如来光明をはなちて、そのひとを撰取したもうなり。

これすなわち、仏のかたよりたすけましますこころなり。またこれ信心を如来よりあたえたもうというもこのこころなり。...



コロナ禍が落ち着いてくることを期待する春を迎えました。しかし、二か月前ロシアがウクライナへ軍事侵攻を始め、戦争による悲劇の報道される毎日が続いています。▼ウクライナで生命など生活のすべてが奪われる人々の姿を見聞きして、心穏やかにしてはおれません。一方ロシアでは、反政権的な言論や行動は厳しく取り締まられています。▼一度戦争が始まると、議論を尽くして平穏な生活を取り戻すことがいかに困難かは、過去に悲惨な経験をした日本国民は知っています。「何かものが言いにくい世の中になった」とならないように、言論の自由・表現の自由などは守らなければなりません。▼仏説無量寿経にある『国豊民安、兵戈無用』仏教が広まれば「武器を用いることが無く、国や民は豊かである」との、お釈迦さまの教えを真剣に受け止める事が大切な時を迎えています。